

## 12. 日本の近世・近代(5) —大日本帝国の矛盾と破綻〈近代②〉

2025. 7.14. 大橋 幸泰

### はじめに

自由民権運動、日清・日露戦争を経て、「国民」の形成(20C 初)

→日清・日露戦争後、日本は世界における「一等国」へ

\*しかし、内実は資本主義による階級社会：資本家と労働者、巨大地主と小作人、有産者と無産者

→「国民」という枠組みの成立と、現実の不平等社会、という矛盾

→抑圧からの解放を志向する風潮：大正デモクラシー／それが、なぜ戦争の時代(1931満州事変、37日中戦争開戦、41アジア太平洋戦争開戦、45敗戦)を招くことになったのか？

### 1. 大正デモクラシーの内実

日露戦争前後、明治国家の様ざまな矛盾が噴出

\*無産者階級の大量創出、足尾鉍毒事件、地域文化・民俗文化の軽視、など

→明治国家への懐疑の勃興

\*例 『白樺』創刊(1910)：個を大事にする視点、自己肯定の精神、の登場

民俗学の誕生(柳田国男による文化運動)：近代化・文明化によって貶められた民衆文化の復権

→抑圧からの解放を求めて、社会運動が展開：農民運動、労働運動、女性解放運動、部落解放運動、など

\*大正デモクラシーを支えた代表的理論：民本主義(吉野作造)と天皇機関説(美濃部達吉)

→デモクラシーの風潮に後押しされる形で、1925 年普通選挙法成立(同時に治安維持法成立)

\*ただし、これらの運動・理論はすべて大日本帝国憲法の枠組を越えない：天皇主権の国体と矛盾しない

→民の権利の伸張には一定程度成果があったとしても、それは日本「国民」(臣民)に限定

### 2. デモクラシーの風潮から「改造」の志向へ

1920 年前後、閉塞感の蔓延とともに「改造」の志向へ

#### a. 対内的契機

①慢性的不況へ突入←不健全な大戦景気(一時的な第一次大戦にともなう好景気)のつけ

②政党政治への不信←原敬内閣(本格的政党内閣)の裏切り、頻発する汚職

#### b. 対外的契機

①欧米帝国主義による圧力← 1921-22、ワシントン会議(第一次大戦後の軍縮)

②朝鮮・中国における抗日運動← 1919、三一独立運動(朝鮮)、五四運動(中国)

→閉塞感の払拭を目指して、大正デモクラシーの風潮を前提とした「改造」への志向

\*当初、「改造」の方向性は不分明：社会主義的「改造」か、国家主義的「改造」か、未分化

\*その一つとして、国家社会主義の立場：北一輝『日本改造法案大綱』(1919 原著、23 刊行)

→やがて、国家主義的「改造」への傾斜

\*その契機

a. 「改造」の方向をめぐる社会運動団体の内部対立(→分裂へ)

b. 国家による社会主義・無政府主義への弾圧：1923 亀戸事件/甘粕事件、1928 三・一五事件/特別高等警察を全国に設置/治安維持法改正(最高刑死刑)、1929 四・一六事件

c. 国民の排外意識の噴出：関東大震災時の朝鮮人虐殺

→ナショナリズムが台頭していく基盤を形成

### 3. デモクラシーの終焉

#### (1) 経済の硬直化

戦後恐慌(1920)・金融恐慌(1927)・昭和恐慌(1930)を経験しながら、日本経済は慢性的不況状況に陥る

\* 不健全な大戦景気を起点として、関東大震災(1923)・世界恐慌(1929)によりいっそう深刻な不況へ

→高橋財政(犬養毅内閣・高橋是清蔵相、1931-36)、積極財政へ転換：軍需産業への投資

\*米国のニューディールと類似の政策：ただし、こちらは主に公共土木事業に投資

→日本経済は恐慌状態からの脱出に成功

\*しかし、財閥と国家との結合の進展を促すとともに、軍部・右翼の発言権上昇の道を開く

→欧米によるブロック経済の影響もあり、日本経済はいっそうアジア市場への依存度を高める

#### (2) 議会政治の終焉

二・二六事件(1936)を経て、軍部勢力の強化：学問・自由主義思想への弾圧(1930年代)

→総力戦体制の構築：アジア太平洋地域の戦争の前線ばかりでなく、国内も「銃後」として戦争体制へ

→既存の政党政治の刷新を唱える新体制運動を経て、政党解散と引き替えに大政翼賛会成立(1940)

### おわりに

大正デモクラシーの枠組み：国民国家としての日本に留まる

→二つの矛盾

a. 「国民」という見せかけ：現実には周縁的存在(女性・アイヌ・沖縄・地方などマイノリティー)の国民化を推進しながら、現実の格差・差別やマイノリティーの不満を隠蔽

b. 「国民」外への抑圧強化：「国民」を守るという名目のもと、アジアへの軍事行動を展開

日本の近代史／自由民権運動・大正デモクラシー：一定程度、民の権利伸張を促進

→しかし、天皇制国家の「国民」の枠組みに限定：国民国家の矛盾

→国民国家の外側(特にアジア)の人びとの生活を無視：大日本帝国の膨張へ

#### 【参考文献】

鹿野政直『日本の歴史 27 大正デモクラシー』(小学館、1976年)

中村政則『昭和の歴史 2 昭和の恐慌』(小学館、1982年)

武田晴人『日本の歴史 19 帝国主義と民本主義』(集英社、1992年)

由井正臣『日本の歴史 8 大日本帝国の時代』(岩波書店 [岩波ジュニア新書]、2000年)

成田龍一『シリーズ日本近現代史 4 大正デモクラシー』(岩波書店[岩波新書]、2007年)

#### 【付記】

・明日までに、Waseda Moodleにて講義記録の提出を求める。

・小レポート提出期限 2025年7月20日：小レポートを提出した者が試験(7月28日)の受験資格を有する。